図 26　尾瀬ケ原下田代の泥炭プラトー（南会津郡桧枝岐村）
ゆるい傾斜に沿ってバンク（堤状の凸地）とホロー（凹地）が交互に発達している。手前の大きな池塘には浮島がみられる。キンコウカ，サワギキョウなどが花盛りである。

山の山頂附近は１年を通して主風は西風であるが，その風衝は山頂部の地形によって異なり，そのため雪の積りかたも場所によって異なる。雪は比熱が大きく，雪被下の植物や土壌は厳冬期の高山の厳しい温度条件から保護される。積雪の少ない山頂部ではこのような保護作用が期待されないため，一般山腹にみられるような森林の成立は困難になる。このような所には特有の嫌雪性の植生が成立するが，その典型はハイマツ低木林である。

また，とくに風衝の激しい尾根の凸端のような所では，雪がほとんど積らず，晩秋や早春には土壌はひんぱんに凍結と融解をくりかえす。このため，北辺のツンドラにみるような条線土や階段礫といった構造土の発達をみることがしばしばある。風衝の激しい所では植生もまたそれに応じて変化する。ガンコウランやミネズオウなど丈の低い低木群落がパッチ状の繁茂をみせるものから，木本類がほとんどなくなって，ムカゴトラノオ，タカネマツムシソウ，イワオウギといった草本植物が低群度の成育をみせるものまでさまざまのケースがみられる。

一方，西斜面を吹き上げて来た西風は，尾根を越えた所で急速に速度を失い，尾根直下の東斜面に多量の積雪をもたらす。この雪は春おそくまで残るため，植物の生育期間が短くなる。そのため樹木類の生育は困難で，湿生の草本植生が成立する。排水のよくない立地では前述の湿原植生と同じになることもあるが，一般に傾斜地で排水がよいので雪田植生と呼ばれる特別の植生となる。雪田植生の中心部はハクサンコザクラとイワイチョウの群落である。吾妻山ではハクサンコザクラの代りにヒナザクラがみられる。この純白の花の咲くサクラソウは吾妻山が分布の南限で，北限は青森県の八甲田山である。周辺植生としてはタテヤマスゲ，ヌマガヤなどの群落があり，カラクサイノデや，ときとしてシラネアオイなども散生する。また，とくに排水のよい鉱質土の場合はミヤマキンポウゲやシナノキ

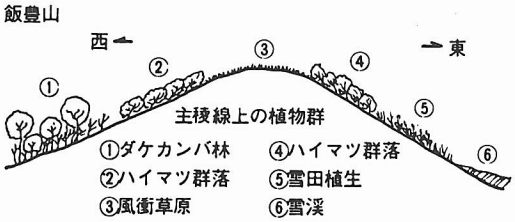


図 27　飯豊山主稜線上の植生の分化（蜂谷ほか 1979 より）